

## 柏市手賀の丘公園で見られるきのこ

氏家 文憲

### 1. はじめに

旧沼南町（現柏市）にある千葉県立手賀の丘公園は自宅から12km、車で30分の距離にあり、増尾城址公園と並び私のきのこ観察のメインフィールドのひとつです。手賀沼南岸の台地上に位置し面積は29.6ヘクタール、広大な園内には片山古墳群とオッコシ古墳群という2つの古墳群をはじめ、江戸時代から昭和初期にかけて建立された庚申塔や石塔・石碑が数多くあり、歴史とロマンを秘めた場所でもあります。また、どんぐりの家（管理棟）、バーベキュー広場、芝生広場、野外音楽堂、キャンプ場、あやめ池、カワセミ池、フィールドアスレチック、テニスコート、野球場、グランド・ゴルフ場なども整備されており、市民の憩いの場となっております。以上のように人工的施設もありますが、大部分は房総丘陵の山林をそのまま生かした自然豊かな緑地であり、園内にはアカマツ、イヌシデ、エゴノキ、クスノキ、クヌギ、クリ、コブシ、シラカシ、シロダモ、スギ、スタジイ、ハクモクレン、ヒサカキ、ヒノキ、ホオノキ、ムクノキ、モミなどの樹種が混交し、梅林、竹林、さくら山、ハナモモ園などもあるので、年間を通じて様々なきのこが発生します。次節に示すように、2008年4月15日から2015年7月18日に至る90回のひとり観察会で見つけたきのこを、次々節の観察種として五十音順にまとめました。図鑑との絵合わせだけで同定したものであり、中には種

名の間違ひがあるかもしれません。その場合はどうぞお許しください。

### 2. 観察年月日

年ごとの観察月日と観察回数は下記の通りです。年を追って観察回数が減っておりますが、新しい菌種との出逢ひが少なくなるにつれ、熱意が冷め根気が続かなくなる様子がわかります。また、今年になって冬季の観察が増えているのは硬質菌に関心に移っているためであります。

#### (1) 2008年・17回

4月15・25日、5月15日、6月2・30日、7月10・30日、8月26日、9月8日、10月1・7日・20・28日、11月4・17・29日、12月21日

#### (2) 2009年・16回

3月2日、4月7・17日、5月8日、6月2日、7月9・23日、8月11日、9月16日、10月3・27日、11月12・26日、12月8・30日

#### (3) 2010年・9回

3月8・27日、4月26日、6月27日、10月4日・17日、11月1日・10・30日

#### (4) 2011年・12回

2月18日、4月26日、5月30日、6月26日、8月2日、10月4・7・11・13日、11月1・23日、12月16日

(5) 2012年・9回

4月18・28日、6月25日、7月15日、  
8月15日、9月16日、10月1・25日、  
12月5日

(6) 2013年・9回

2月9日、4月4・25日、6月14日、9  
月10日、10月4・17日、11月11日、12  
月28日

(7) 2014年・10回

2月20日、4月23日、6月13日、7月  
28日、8月31日、9月17日、10月22日、  
11月28日(私の誕生日)、12月22・30日

(8) 2015年・8回

1月9・27日、2月9日、3月3・24日、  
4月15日、6月26日、7月18日

7・9・10月)、ウスキモミウラモドキ(8  
月)、ウスキモリノカサ(6-10月)、ウス  
ベニイタチタケ(4・5・11月)、ウチワ  
タケ(6-8月)、ウラスジチャワシタケ(5  
月)、ウラベニガサ(6・11月)、エゴノキ  
タケ(2・10月)、エノキタケ(1-4・11・  
12月)、エリマキツチグリ(9・10月)、  
オオキヌハダトマヤタケ(7・10月)、オ  
オツルタケ(6・7・9月-11月)、オオヒ  
ラタケ(7・8月)、オオホウライタケ(6  
-10月)、オオホウライタケ近縁種(7・10・  
11月)、オオヤシヤイグチ(10月)、オキ  
ナクサハツ(6-10月)、オニタケ(8-10  
月)、オロシタケ(4月)

3. 観察種(五十音順)、括弧内確認月

あ行

アイゾメクロイグチ(7・9月)、アイト  
ケ(6月、8-10月)、アイバシロハツ(9  
月)、アオゾメタケ(10月)、アカキツネガ  
サ(8-10月)、アカコウヤクダマ? (11  
月)、アカチャツエタケ(8・10月)、アク  
ニオイタケ(4月)、アシグロタケ(6・  
7月)、アシナガイタチタケ(4-6月)、  
アシナガタケ(10・11月)、アシブトアミ  
ガサタケ(4月)、アセタケ属(6-11月)、  
アマタケ(7・8月)、アミガサタケ(4  
月)、アミスギタケ(6・8月)、アミヒラ  
タケ(4・6・7・10・11月)、アラゲカ  
ワラタケ(2・3月)、アラゲキクラゲ(1・  
2・4・6・8・10-12月)、アワタケ(6・  
7・10月)、アンズタケ(6-8・10月)、  
アンズタケモドキ(6月)、アンズタケ属  
(10・11月)、イグチ属(6・7・8月)、  
イタチタケ(4-11月)、イタチナミハタケ  
(10月)、イッポンシメジ科(6・7月)、  
イヌセンボンタケ(9月)、イボテングタ  
ケ(10月)、イロガワリ(6-8月)、ウコ  
ンハツ(9月)、ウスキテングタケ(6・

か行

カイガラタケ(10月)、カバイロツルタケ  
(6・8月)、カバイロトマヤタケ(10月)、  
カヤタケ属(10・11月)、カラムラサキハ  
ツ(3・4月)、カレエダタケ(8・9月)、  
カレバキツネタケ(6・7・9月・10月)、  
カワラタケ(1・2・6・7・12月)、カ  
ワリハツ(10月)、ガンタケ(6-10月)、  
キアシグロタケ(6・10月)、キアミアシ  
イグチ(7・8月)、キクラゲ(2-6・11・  
12月)、キシメジ科(10月)、キタマゴタ  
ケ(6・7・9・10月)、キチャハツ(6  
月)、キチリメンタケ(3・4月)、キッコ  
ウアワタケ(6・9月)、キツネタケ(6・  
10月)、キツネノカラカサ(6・8・10・  
11月)、キツネノハナガサ(8・10月)、  
キツネハツ(6・8・9月)、キヒダタケ  
(6・7・9月)、キボリニア・グラキリ  
ペス(3月)、キララタケ(4-6・8・10・  
11月)、キリンタケ(6・9月)、クサイロ  
ハツ(6-10月)、クサウラベニタケ(7・  
10月)、クサハツ(6-11月)、クサハツモ  
ドキ(6・10月)、クシノハシワタケ(1-  
4・12月)、クジラタケ(1・3・7・11  
月)、クヌギタケ属(10月)、クラガタノボ

リリュウタケ (6月)、クリイロイグチモドキ (7-9月)、クリイロカラカサタケ (8・10月)、クリタケ (11・12月)、クロアシボソノボリリュウタケ (7月)、クロタマゴテングタケ (7月)、クロトマヤタケモドキ (6・7月)、クロノボリリュウタケ (6・7月)、クロハツ (6-9月)、クロハツモドキ (7月)、クロフチシカタケ (6-8月)、ケショウハツ (6・7・9月-11月)、コウジタケ (6-10月)、コオニイグチ (9月)、コガネカレバハツ (4月)、コガネツムタケ (6月)、コガネニカワタケ (11月)、コカブイヌシメジ (10・11月)、コキララタケ (7月)、コゲチャイヌシメジ (仮) (6・10・11月)、コゲチャイロガワリ (6・8・9月)、コザラミノシメジ (4・6・8月)、コテングタケ (10月)、コテングタケモドキ (7・9・10月)、コトヒラシロテングタケ (10月)、コナカブリテングタケ (6月)、コバヤシアセタケ (6月)、コフキサルノコシカケ (1-3・12月)、コブミノカヤタケ (12月)、コムラサキシメジ (10・11月)

## さ行

サクラタケ (8・10・11月)、サケバタケ (6・7月)、ササクレフウセンタケ (7月)、サマツモドキ (6・9月)、ザラエノハラタケ (8・10月)、ザラエノヒトヨタケ (6-8・10月)、サルノコシカケ科 (1・3・8月)、シクイタケ (1-3・6・7月)、シラゲアセタケ (6月)、シラタマタケ (10・11月)、シロアンズタケモドキ (6月)、シロイボカサタケ (7・9月)、シロオニタケ (7-10月)、シロキクラゲ (6月)、シロゲカヤタケ (9-11月)、シロサクラタケ (6・10・11月)、シロソウメンタケ (6・7月)、シロテングタケ (10月)、シロニセトマヤタケ (10月)、シロハツ (6月)、シロヒメカラカサタケ (8-10月)、シワナシ

オキナタケ (6月)、スエヒロタケ (2・3・11・12月)、スギエダタケ (10-12月)、スジウチワタケモドキ (6・7・11月)、スッポントケ (10・11月)、スミヅメヤマイグチ (6・9月)、センベイトケ (2・3・6・7月)、センボンイチメガサ (6・9-11月)

## た行

ダイダイガサ (6・7・11月)、ダイダイタケ (2・9・11月)、タヌキノチャブクロ (6月)、タマゴテングタケモドキ (6・7・9・10月)、ダンアミタケ? (3・6月)、チチアワタケ (6・8-11月)、チチタケ属 (6・7・9-11月)、チビホコリタケ (9月)、チャウロコタケ (1・6月)、チャヌメリカラカサタケ (9・10月)、チャヒラタケ (6月)、チャワಂತケ属 (4・6・10月)、ツエタケ (6・10月)、ツチグリ (11・12月)、ツチナメコ (10・11月)、ツノフリタケ (6月)、ツノマタタケ (6・8・10月)、ツバナシフミヅキタケ (5・6・8月)、ツブカラカサタケ (8月)、ツヤウチワタケ (6・7月)、ツルタケ (6-10月)、テングタケ (6・7・9・10月)、テングタケダマシ (6-11月)、テングツルタケ (6-10月)、ドウシントケ (5・6・9-11月)、トキイロヒラタケ (7・8月)、ドクツルタケ (610月)

## な行

ナガエノチャワಂತケ (6月)、ナカグロヒガサタケ (8月)、ナカグロヒメカラカサタケ (9月)、ナカグロモリノカサ (6・8-10月)、ナヨタケ (4-6月)、ナヨタケ属 (4・6・8・11月)、ナラタケ (5月)、ニオイコベニタケ (6・8月)、ニガイグチ属 (6-9月)、ニガクリタケ (6・9-11月)、ニクウスバタケ (1・2・11月・12月)、ニセクサハツ (6・7・11月)、ニセ

シヨウロ属 (6月)、ニセニクハリタケ (4・11月)、ニセマツカサシメジ (11・12月)、ニッケイタケ (7・10月)、ヌメリガサ科 (6月)、ヌメリスギタケモドキ (11月)、ネンドタケ (2・12月)、ノウタケ (6・8・9・11月)

## は行

ハイイロイタチタケ (5-11月)、ハイカグラテングタケ (9月)、ハカワラタケ (1・2・4・7・12月)、ハタケシメジ (10月)、ハタケチャダイゴケ (8・10月)、ハチノスタケ (4-6・9-11月)、ハナオチバタケ (8月)、ハラタケ属 (5・6・8-11月)、ハリガネオチバタケ (7・8・10月)、ヒロタケ (1-3・6・7・10・11・12月)、ヒトヨタケ属 (5・10月)、ヒビワレシロハツ (6-11月)、ヒメアワタケ (6・7月)、ヒメカバイロタケ (5・7月)、ヒメカンムリタケ (11月)、ヒメキクラゲ (1・2月、4月)、ヒメコナカブリツルタケ (6月-10月)、ヒメシロアマタケ (12月)、ヒメシロカイメンタケ (2・12月)、ヒメヒガサヒトヨタケ (6・8・10月)、ヒメホコリタケ (6月)、ヒメムラサキシメジ (11・12月)、ヒメモグサタケ (2月、10月、11月、12月)、ヒラタケ (1-3月、11・12月)、ヒラフスベ (6・7月)、ビロードツエタケ (7月)、ヒロハシデチチタケ (6・10月)、ヒロハチチタケ? (7月)、フウセンタケ科 (4・5月・10月)、フクロシトネタケ (4月)、フクロツチガキ (10・11月)、フクロツルタケ (7-10月)、ブドウタケ (4月)、ブドウニガイグチ (10月)、フミズキタケ (5月)、ベッコウタケ (6月)、ベニタケ属 (4-11月)、ベニヒダタケ (6月)、ヘビキノコモドキ (7・9・10月)、ヘビキノコモドキ近縁種 (6月、8月、9月、10月)、ホコリタケ (5・9-12月)、ボタンイボタケ (7-10月)

## ま行

マツオウジ (5-7・10月)、マツカサキノコモドキ (1-3・11・12月)、マメホコリ (10月)、マントカラカサタケ (8-10月)、マンネンタ (7-9・12月)、ミドリスギタケ (10月)、ミドリニガイグチ (6-10月)、ミヤマタマゴタケ (10・11月)、ムササビタケ (11・12月)、ムジナタケ (6月)、ムラサキシメジ (10-12月)、ムラサキヤマドリタケ (6・9月)、モエギタケ科 (10-12月)、モエギビョウタケ (4・11月)、モチゲチチタケ (橋屋仮) (7・8・10・11月)、モリノカレバタケ (6・8月)、モリノカレバタケ属 (4-8・11月)

## や行

ヤケアトツムタケ (4月)、ヤケイロタケ (2・11・12月)、ヤシャイグチ (9・10月)、ヤブレベニタケ (9・10月)、ヤマドリタケモドキ (6・7-10月)、ユキラッパタケ (10-11月)

## わ行

ワタカラカサタケ (9・10月)

## 4. おわりに

種の同定に用いた図鑑類は、千葉菌類談話会通信 29号の 28頁に列挙したものと同じです。

この8年間に手賀の丘公園で観察できた種類は256種類に上ります。29号で報告した「柏市増尾城址公園で見られるきのこ」は226種類でした。両公園は直線距離にして10km未満、手賀の丘公園にアカマツが生えている点を除き樹種の構成はほぼ同じことから、174種類のきのこが共通種でした。

手賀の丘公園で見られ、増尾城址公園で見られなかった82種類中の主なものは、アイタケ、アシブトアミガサタケ (写真1)、アンズタケモドキ、ウスベニイタチタケ、オオ

ヒラタケ(写真2)、クリタケ(写真3)、シロイボカサタケ、シロゲカヤタケ、シロソウメンタケ、チチアワタケ、ニセマツカサシメジ、ヒメカンムリタケ、ヒメムラサキシメジ、マツカサキノコモドキ、ミヤマタマゴタケなど。その逆に増尾城址公園で見られ手賀の丘公園で見られなかった52種類中の主なものは、アカヤマドリ、キショウゲンジ、クリカワヤシャイグチ、クロニガイグチ、コウモリタケ、シロカノシタ、シロツルタケ、チャニガイグチ、ニガイグチモドキなど。

アカマツ菌根菌を除けば探し方が足りないだけで、どちらの公園にも発生しているのかもしれない。

手賀の丘公園では、腰籠にハツタケを採っていた地元の達人と出逢ったこともあり、又、同じ千葉菌会員のFさんは初めて訪れた時に早くもマツカサタケを見つけた由、私など90回も通い詰めても未だ両種に出逢ったことはなく、まだまだ勉強が足りません。これからも公園通いを続けます。

尚、手賀の丘公園での発生量が比較的多く、季節が来ると採集・調理して食膳に上るのこは、アミガサタケ、エノキタケ、キクラゲ、シロゲカヤタケ、ヒラタケなど。近場の公園は我が家の天然きのこ栽培場として極めて貴重且つ重要です。



写真2. オオヒラタケ(2007年8月6日)



写真3. クリタケ(2008年11月17日)



写真1. アシプトアミガサタケ(2007年5月2日)